

## オーディオ実験室収載

### ターンテーブルアキュライザーの導入(4) —TohrensTD124 への適用(1)—

#### 1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1が発売されたとの情報を入手し、前報(1)の計画に従って評価をしていきます。今回は、TohrensTD124 に使用してみます。

#### 2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴方法

TohrensTD124 再生の現状は下記のとおりです。

アナログプレイヤーの比較試聴(18)

TD124→ZANDEN Model120(アンバランス入力)→Brooklyn DAC+(Line 入力)→  
TruPhase

カートリッジは SPU Synergy、アームは RMG212 、フォノステージは ZANDEN Model120 のアンバランスフォノ入力段です。

さらにターンテーブルシートは LINN LP-12 付属のフェルト製のものを、スタビライザーは foQ 製のものにフェルトを貼ったものを、インシュレーターは自作品を使用しています。



このスタビライザーを外して TACU-1 に交換します。



音源は聴きなれた下記を使用します。

**ARCHIV 28MA0020**

J.S.バッハ チェンバロと弦楽のための協奏曲 BWV1052・1053・1054

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュ・コンサート

ドイツグラモフォン MG8333/4

ニコロ・パガニーニ 24の奇想曲

サルヴァトーレ・アッカード (Vn)

**CBS SONY SOCL 36 Horovitz on Television**

フレデリック・ショパン Polonaise in F-Sharp

Nocturne in F

Ballad in G 他

ウラディミール・ホロヴィッツ(pf)

**TOKYO FM TFMLP1051-1053**

J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲

ピエール・フルニエ (Vc)

**3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴結果**

上記の音源はいずれも再生上なんらかのハードルがあるもので、チェンバロと弦楽のための協奏曲と24の奇想曲はTELDEC、逆相、第4時定数Highで、Horovitz on TelevisionはColumbia、逆相、第4時定数Lowで、無伴奏チェロ組曲はRIAA、正相、第4時定数Highで聴いていきます。これらの再生上のポイントは前報(2)で述べたとおりです。

チェンバロと弦楽のための協奏曲は、上記のスタビライザーの状態でも、勢いのある演奏で満足のいくレベルですが、TACU-1を適用しますと、エッジのきつさと粗さが

和らげられ、バロックアンサンブルらしいニュアンスの表現が向上します。

24の奇想曲は、上記のスタビライザーの状態でも、十分にスリリングな演奏が聴けますが、TACU-1を適用しますと、速いパッセージの細かいニュアンスがでてきますし、ゆったりとしたパッセージでは響きの良さが出てきます。

Horovitz on Television は、上記のスタビライザーの状態でも、ホロヴィッツらしい打鍵の強さがありますが、TACU-1を適用しますと、余分な響きが整理されて、高域から低域まで引き締まり、ホロヴィッツのピアノズムが把握しやすくなります。

無伴奏チェロ組曲は、上記のスタビライザーの状態でも、SPUらしい豪快なチェロの響きが満足すべきレベルですが、TACU-1を適用しますと、滑らかになり、細かいニュアンスが聴けるようになります。

ThorensTD124 は、1950年代後半の設計のベルトアイドラー式のプレイヤーであり、ジャンク品同然のものをリストアしたものであるので、TACU-1がどのような効果を発揮するか興味がありましたが、このような古いメカのプレイヤーでも効果が現れることが分かりました。

#### 4. まとめ

ThorensTD124のような旧式のシステムにおいてそれぞれ再生上ハードルのあるアナログ盤においてTACU-1の効果を認めました。

以上